

**令和6年度 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業
審査結果表**

大 学 名	筑波大学	タイプ	Ⅱ：海外展開型
プ ロ グ ラ ム 名	GASSHUKU（合宿）と DOJO（道場）によるグローバルスタートアップ人材育成		
連 携 大 学 等	—		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、これまでの貴学における既存のプログラムやリソースを最大限に活用しながら、国際共修へ学生の参画を拡大しようとする堅実な取組みであると評価できる。具体的には、海外留学を促すため、RUN-UP → HOP → STEP → JUMP と段階を踏んだ学修プログラムを設計しており、ロジックモデルが明確であることから学生や教員、アシスタントなど、様々な立場からも学びのロードマップが理解しやすい作り付けになっている。また、各段階の方策として「合宿」「道場」というレトリックを用いる、多文化共修マイスター制度を導入するなど、学生の留学経験への心理的な参入・継続の障壁を低くする試みがなされている点や、日本側の学生と海外の学生のバランスの取れた参画を意識している点も高く評価できる。「オープンバッジ」や「マイクロクレデンシャル」の発行等により、学びの可視化や質保証のシステムについても適切な計画がなされている。

さらに、プログラムの実施をサポートするための JV-Campus の活用や、その上に共有科目ライブラリの構築が企図されており、参画大学が科目コンテンツの共有化を図るために画期的な試みであると評価できる。コンテンツの整備、個別参加大学での位置づけと活用、成績評価方法など実施の上での課題は多いと思われるが、今後の展開に期待したい。

一方で、学修プログラムの設計において段階を踏んだ学修モデルが高度に整備されているが、合宿、道場といった集団性の高いプログラムには学生のパーソナリティや文化的背景による親和性の差も生じやすいと考えられる。より多くの学生が JUMP の段階まで学修を継続できるようにきめ細かい支援の体制を検討されたい。

最後に、今回選定された貴学においては、世界や地域の課題解決に資する人材を育成するため、多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動を、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出につなげていくことを強く要請する。